

2010年 ISAF ミッドイヤー ミーティング レポート

バラトン湖 ハンガリー

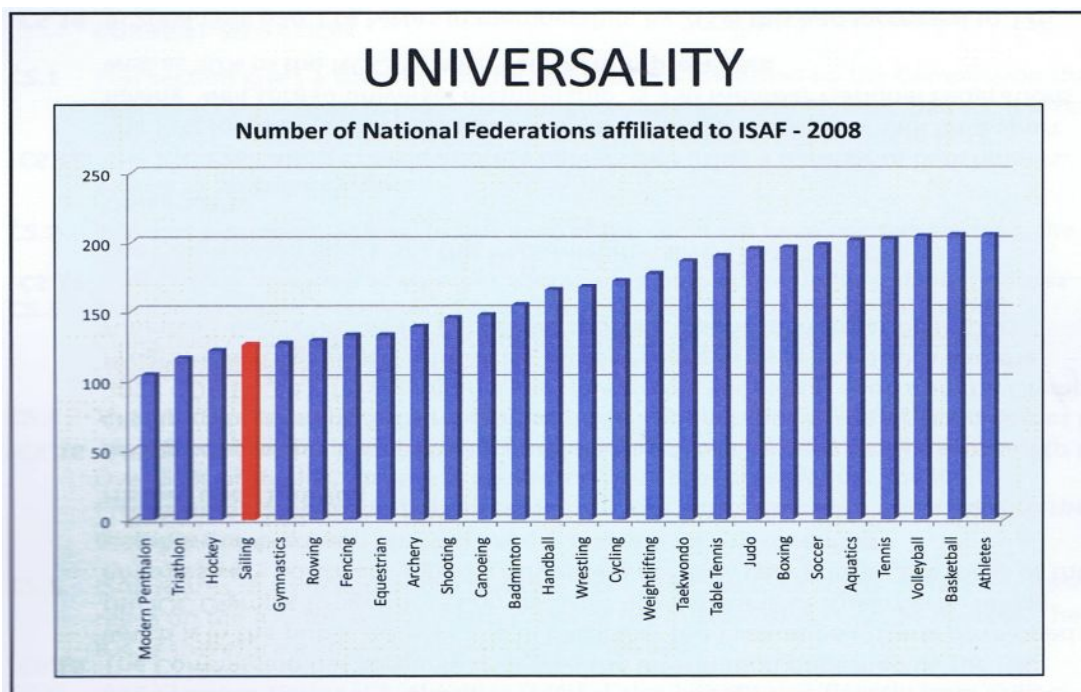
5/5-8. 2010

今回の最大のトピックは2012年のオリンピックでのセーリング競技をいかに世界に発信出来るかであり、この大きな命題に取り組むために ISAF 会長及び副会長直属の<オリンピック特別委員会>（現役選手代表を含む）が結成され、1年にわたり入念に調査研究してまとめたレポートが提出されたことだ。 その中に掲げられた次の5つの目的

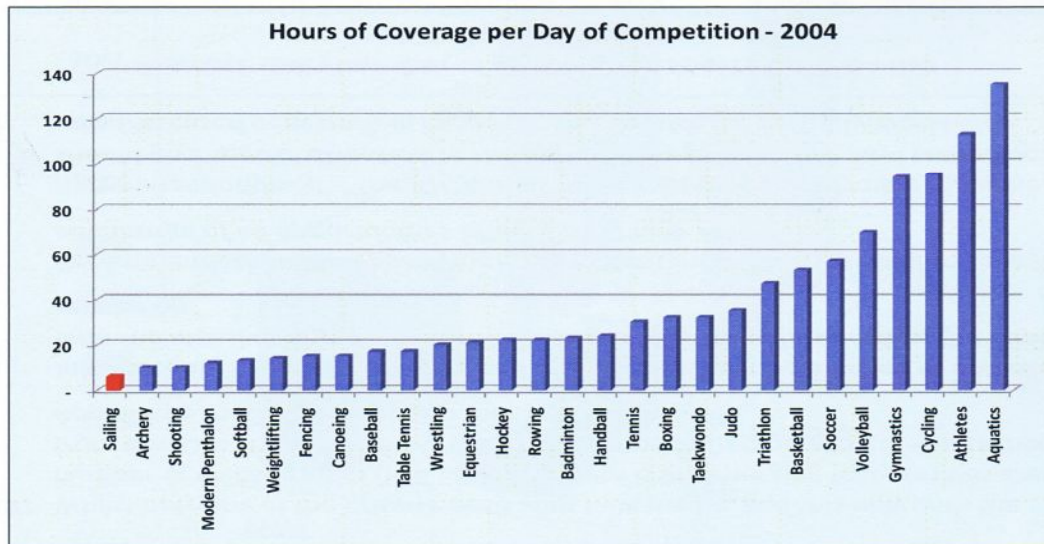
- * 普及国数を増やす
- * オリンピックへの国粋獲得のチャンスを広げる
- * わかりやすい競技にする
- * 幅広くかつ優秀な選手が参加しやすいイベントの構成
- * オリンピックを最高峰と位置付ける

これを ISAF としていかに実行プランとしてまとめ、かつ実行していくかがオリンピック競技のひとつとして生き残れるかどうかにかかっている。

現状を理解していただくためにレポートの中からオリンピック26競技の普及度（各競技の加盟国数）とTV放映時間(開催日当たり)のグラフを下記に転載。



POPULARITY – TV Coverage

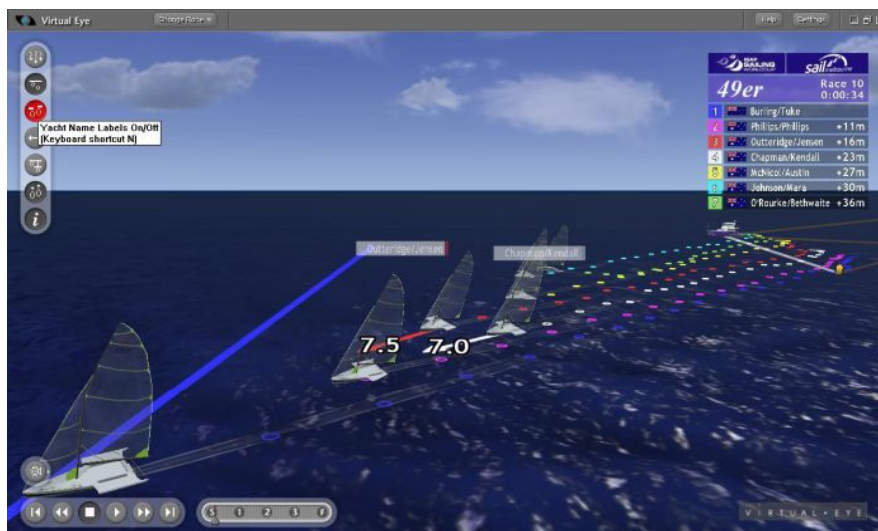


この二つのグラフと I S A F の収入の 1/3 がオリンピック放映権から来ることを考えると、今回の作戦がいかに大切なものであるかが理解できる。

その他の主なトピックは

1. トラッキング

セーリングを幅広くわかりやすく世界に発信するため(下記参考画面)、同時にゼネラルリコールをゼロにするため、あるいは安全確認のといったスピーディーなレース運営にも重要となるなトラッキングシステムの開発に関してのワーキンググループからの詳細な報告に基づき ISAF としてセーリング競技に必要なシステムの均一化を準備することとなった。これは 2012 年ロンドン大会に向けての最重要課題として進められる。



2. 2010年オリンピック ロンドン大会

準備は順調に進んでいる。課題であった選手村はハーバー南側に隣接する低層住宅型ビレッジの建設が始まっている。地形を利用して陸上から観戦できる海面の設定、最新技術を導入してのわかりやすい画像放映等、オリンピックでのライブ中継放送を重点としている。イギリスではセーリング競技が一番のメダル獲得競技であるため特に力が入っている。JSAFからのTV中継放送に関する提案も参考にしてもらえそうなのでさらなる提案を進めていきたい。

3. ISAF ユースワールド

男女ともにレーザーラジアルが採用によるシングルハンドのエントリー大幅増に加え、ハイパフォーマンスオープン29er級の採用で本年のイスタンブール(トルコ)大会では過去最大の62カ国355名のエントリーが予定されている。2011年からクロアチア、アイルランド、キプロスと3年連続でのヨーロッパ大会となるため増加傾向は続くと思われる。

4. ユースオリンピック

ユースオリンピックの参加国枠(まだ日本は取れていない)の再配分(最大枠である2枠以上獲得している国の使用枠決定をうけて、あるいは参加しない国からの返上枠の配分)手続きを早める事となり5月中旬には発表される予定。

5. ワールドカップおよびISAFワールド

セイルメルボルンから始まったワールドカップシリーズはイエール大会まで順調に開催されているがメルボルンとマイアミ大会への参加率を高める必要がある。一方パース(オーストラリア)ではロンドンオリンピックの国枠の75%を選考する大会である2011年ISAFワールドの準備も着々と進み、現地にはセーリング新興国含めて多くのセーラーがトレーニングに訪れている。

6. 加盟承認

アフリカのボツワナとモザンビークの2カ国の加盟が承認された。同時にアフリカ大陸セーリング連盟も組織されることとなった。

7. ISAF 組織運営のスムーズ化

会社組織としてのISAFの役員をカOUNシル全員を含む大組織から会長及、副会長及び会計のみにする手続きが取られた。

今回の会議は海の無いハンガリーでは<ハンガリー海>と国民から愛されるバラトン湖畔にあるイベントコミッティーメンバーであるジョージ フンダー氏所有のホテルで開催され、その運営のスムーズさでハンガリーセーリング連盟の株を大きく上げた。

ISAF イベント委員、カOUNシル 大谷 たかを